

近隣一帯の家屋が押し流される中…

津波に耐えた、FPの家

2011.3.11 東日本大震災



□震災直後



□改装後

大津波に耐え抜いた「FPの家」で
再び快適に暮らせることが何よりの喜びです。

〈岩手県 桜庭様〉

桜庭様のお宅があるのは海岸からは1kmあるかないかの場所。周辺には300戸ほどの住宅が建ち閑静な町並を形成していましたが、震災後は一帯の家屋は津波に押し流され、悲しいことに見る影もない状態になりました。今まで経験したことのない揺れに、すぐに車で避難し幸い津波から逃れたご夫婦でしたが、結局やむなく車中で2泊することに。翌日も家を見に行こうにも叶わず、3日目になってようやく村に入る際、途中で再会したご近所の方から初めて家が残っていることを知らされました。1階部分には、よその家のトタン屋根や車、更に海岸の防潮堤にあった松林の松の木がぶつかりひどく損壊していましたが、周囲の建物が津波にのみ込まれた中、桜庭さんのお宅だけは同じ場所に傾くこともなく、しっかりと残っていました。現地に駆けつけた施工工務店であるFP会員の社長が発した「直せば入れる!」の言葉に安堵と勇気もらい、震災から2カ月で電柱が建ち、2〜3週間で電気が復旧。6月からスタートした改築工事は2カ月余りで終了し、桜庭さんご夫妻は以前と変わらない暮らしを取り戻したのです。「寒がりなので暖かい家が欲しい」と願ったうえで購入した「FPの家」。何不自由ない快適な生活を送ってきましたが、今回の震災で予ねてから聞いていたFPならではの“水と地震に対する強さ”を改めて強く感じられたようで、甦った「FPの家」で新たな一歩を踏み出されています。

□こちらのお施主様のインタビューの様子を動画で見ることができます。

インターネットテレビ
FPweb.TV

<http://www.fpweb.tv/>